

○広島文教女子大短大 長石啓子 ノートルダム清心女子大 浅田幸子 徳実短大 足立啓子
 ノートルダム清心女子大 榎並英子 岡山教育 遠藤マツエ 広島文教女子大 妹尾勝子 香川県立善短大 田窪純子
 香川大教育 時岡晴美 山口県庁 中川忍子 広島大教育 中間美砂子 広島女学院大短大 富士田亮子

目的・方法 第一報に同じ。本報告では、家族形態（親との同別居・配偶関係・子との同別居）、住居の形態（一戸建て・集合住宅）、居住年数（10年未満、20年未満、20年以上）の違いによる女性のネットワークの現状と課題を明らかにする。

結果 家族形態別の日常時リンケージは、親と同居・無配偶者・子のない場合、近隣との接触は少なく、職場関係や幼なじみ・同窓生など個人ネットワークがみられ、情報交換・土産の交換等による活性化がはかられている。親との別居・有配偶者の場合は、親族及び近隣との接触に積極性がみられる。緊急時のリンケージはいずれの場合も家族型優位で、家族形態別の差は認められない。親との死別者がネットワークに対する情緒的満足感が最も高く、拡大努力も積極的である。子と別居の場合は、地域の助け合いを評価し、町内行事参加などの拡大努力もみられる。住居の形態・居住年数別では、一戸建て・長期居住者は親族・近隣との接触が多く、緊急度の高い急病・怪我、災害では、長期居住者ほど近隣リンケージの活性度が増加している。自己評価も高く拡大努力も積極的で、ネットワークを育てていると言える。集合住宅・短期居住者はネットワーク人数が少なく、お祝い・香典なども少ないが、日常時リンケージでは、職場関係・趣味社会活動関係の活性化が見られ、個人リンケージの萌芽が認められる。しかし、緊急時は親族に頼り、緊急事態の生じたことのない人も多く、ネットワーク拡大希望度は高いが拡大努力度は低い。家族形態の多様化、集合住宅の増加、高齢化社会の予想される今日、短期居住者について家族形態・住居形態の多様化に応じたネットワーク形成研究が急務と考えられる。